

2165-01
授業科目名/Subject
日本の社会

学科区分/Department	学年/Year	形態/Term	単位/Credits	カリキュラム Curriculum	クラス/担当者 Class/Instructor
国際関係学科	2	半期	4	旧	服部 慶巨

■ 授業概要 / Outline

- 授業のテーマ/Overall Theme for Course
 日本(人)の本質的(かつ伝統的)な行動様式を理解する
 (To understand the Homo-Japanesque)
- 授業のねらい/Goal
 日本はその特異な社会構造・文化体系から「誤解」「嘲笑」の対象にされやすい国であるといえる。しかし、正確な「日本(人)像」を諸外国に対して発信できる日本人も少ない。そういった側面から、日本人の志向(または思考)を解説していく。
- 授業の方法/Content
 日本(人)および日本社会を理解するための概念・理論・キーワードを紹介し、社会科学的な視点から講義する。参考書やプリント、視聴覚資料(CDやDVDなど)を用い、理解の助けとする。様々なメディア(国内外問わず)を通じて得られる情報を、随時紹介する。

■ 授業計画 / Teaching Plan

- 第1回 シラバス授業(講義の方針、展開方法、基礎概念、目標などの確認)
- 第2回 文化とパーソナリティ(1) 概要(a)
- 第3回 文化とパーソナリティ(2) 概要(b)
- 第4回 文化とパーソナリティ(3) 縮み志向・県民性
- 第5回 文化とパーソナリティ(4) 甘え
- 第6回 文化とパーソナリティ(5) タテ社会
- 第7回 日本(人)的発想の根本(1) 宗教観と自然観
- 第8回 日本(人)的発想の根本(2) 縁(えん・えにし)
- 第9回 日本(人)的発想の根本(3) ハラ(腹)と心
- 第10回 日本(人)的コミュニケーション(1) 以心伝心
- 第11回 日本(人)的コミュニケーション(2) 恥の文化(義理人情)
- 第12回 日本(人)的コミュニケーション(3) 間人主義
- 第13回 日本(人)的コミュニケーション(4) 公と私
- 第14回 日本(人)的コミュニケーション(5) 和
- 第15回 日本的経営(1) 概要
- 第16回 日本的経営(2) 稟議制度と根回し
- 第17回 日本的経営(3) 日本的官僚制
- 第18回 日本的家族観(1) イエ制度
- 第19回 日本的家族観(2) 戦後の問題点1
- 第20回 日本的家族観(3) 戦後の問題点2
- 第21回 日本的エスノセントリズム(1) 特徴
- 第22回 日本的エスノセントリズム(2) 国際化
- 第23回 放送用語から見た日本社会(1) 概要
- 第24回 放送用語から見た日本社会(2) 人種・民族・国家観
- 第25回 放送用語から見た日本社会(3) ジェンダー
- 第26回 放送用語から見た日本社会(4) 差別問題
- 第27回 放送用語から見た日本社会(5) ドラマにおける放送用語の実態
- 第28回 特別解説(前半)
- 第29回 補講日(後半)
- 第30回 まとめ

■ 教材 / Teaching Materials

- 教科書/Textbooks

プリント配布 / Handouts

- 必携参考書/Required reference books

著者名/Authors	服部 慶巨
書名/Title of books	補強版ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学
出版社/Publishers	人間の科学社
ISBN	ISBN4822602389
備考/Notes	

- 推薦参考書/Recommended reference books

開講時に指示する / Announced during the first class meeting

■ 履修条件 / Prerequisites

学科・専攻にかかわらず、日本社会・日本人に関する知識を吸収したいという意識の高い学生を大歓迎する。

■ 成績評価 / Evaluation

終講試験(70%)、受講態度(20%)、レポート類(10%)で評価する。なお、全講義回数(30)の3分の2以上の出席が原則(公欠や就職活動による欠席などは申し出ること)。

■ 準備学習の内容・その他 / Preparation and Others

特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)してから次の講義に臨んでほしいと思う。

■ 連絡先 / Contact Information

服部 慶巨

- オフィスアワー / 質問・相談は、講義の前後またはEメールで受け付けます。